

V251a TMT 計画 – 進捗報告

臼田知史, 青木和光, 伊王野大介, 倉崎高明, 嘉数悠子, 山下卓也, 杉本正宏, 鈴木竜二, 藤縄俊之, 能丸淳一, 関口和寛, 吉田道利, 常田佐久 他 (国立天文台), H. Yang, L. Simard, E. Reddy, T. Soifer, S. Xue, B. Kirshner, F. Liu 他 (TMT 国際天文台 (TIO))

TMT は日本が国際協力で実現を目指している次世代の超大型 30m 光学赤外線望遠鏡である。TIO は、2019 年以後マウナケアでの建設工事を進められていないが、状況の改善に向けた活動を進めている。これまで TMT に批判的だった人たちを含め 400 人以上の地元関係者との直接対話を進めると共に、嘉数特任専門員を中心に、地元住民のニーズに沿った教育支援や職業訓練プログラム等の活動をプランとしてまとめ、米国国立科学財団 (NSF) への提案書にまとめられ、NSF から高い関心があるだけでなく、ハワイ先住民からも感謝の声が聞こえる。このように TMT に対するハワイでの信頼関係の醸成が進んでいる。また、これまで先住民の声が反映されないと言う批判があったマウナケア管理については、ハワイ州法によって新たな管理組織が正式に発足し、昨年 11 月以降、毎月会合が開催され、先住民の要望や天文学推進に関する意見を集約する仕組みづくり等が議論されている。他、課題であった既存望遠鏡の削減に向けた撤去作業も進められている。TMT の建設・長期運用には、先住民に信頼されるマウナケア管理が必要であり、それに向けた大きな一歩となる。今年 3 月に開催された NSF による US-ELT プログラムの基本設計審査 (PDR) では、TMT は十分最終設計段階に進む計画であるという結論で完了した。TIO および参加機関における活動は財政的に抑制している状況ではあるが、全体計画の工程上必須の作業が各国で進められており、国立天文台でも日本担当部分が全体計画の遅延を引き起こさないために、製造再開後に必須の準備作業や設計・開発作業を進めている。本講演では TMT 計画の現状と今後の展望について報告する。